

設計単価の端数処理について

1. 単品として単価策定する場合

- 例1) 見積り → 平均値：有効数字3桁（4桁以降切り捨て）、最頻値：見積りのまま
例2) 物価資料 → 一方の資料にしか掲載がないものは、掲載の価格。
平均の場合の有効数字は両誌のうち大きい方に合わせる。
ただし、3桁未満の場合は3桁。

2. 単位当たり単価に換算する場合

- 例1) 単品単価が5m当たり単価で、m当たり単価にする場合
→ $6,480\text{円}/5\text{m}=1,296\text{円}/\text{m}$ （このまま、端数処理は行わない）
※換算して余りが出る場合、単価は1円までとし、1円未満は切り捨てる。
 $16,000\text{円}/15\text{m}=1,066.66\cdots$ 1,066円/mとする。
例2) 100kg当たり単価をもとに、350kg/m²単価にする場合
→ $2,650\text{円}/100\text{kg}\times 350\text{kg}=9,275\text{円}/\text{m}^2$ （このまま、端数処理は行わない）

3. 単位当たり単価から1個当たり単価へ換算する場合

- 例1) 換算単価が1個（組）の製品単価となる場合（基礎ブロック、柵、縞鋼板等）
→ $29\text{円}/\text{kg}\times 1,512\text{kg}/\text{個}=43,848\div 43,800\text{円}/\text{個}$ （有効数字3桁、4桁以降切り捨て）
→ 管内単価表の大型集水柵の加算・減算額による柵1個当たりの計算結果の端数処理は行わない。
例2) 円未満端数が出る場合
→ $169\text{円}/\text{kg}\times 0.041\text{kg}=6.929\text{円}/\text{組}$
1000組当たりにして [6,929円/1000組] が望ましいが不都合が生じる場合に限り有効数字3桁（4桁以降切り捨て）とする。この場合6.92円/組

4. 上記のパターンを複合・合算して最終的な単価を出す場合

あくまで上記で策定された単価を元に計算を行い、計算結果の端数処理は行わない。

計算方法1) 物価資料策定単価を単位当たりに換算

1で策定された物価単価（有効数字3桁または表示桁数）を元に算出。
単位当たりへの換算方法は上記2により、端数処理は行わない。

計算方法2) 製品単価の合算

単価表及び3で策定された1個当たり単価を合算。計算結果の端数処理は行わない。

計算方法3) 配合材料（グラウト材等）の単位当たり単価の計算方法

（各種配合量×各種単価）の合算。計算結果の端数処理は行わない。